

グラフでみるきょうたんご

ご覧いただく際のご参考にしてください。

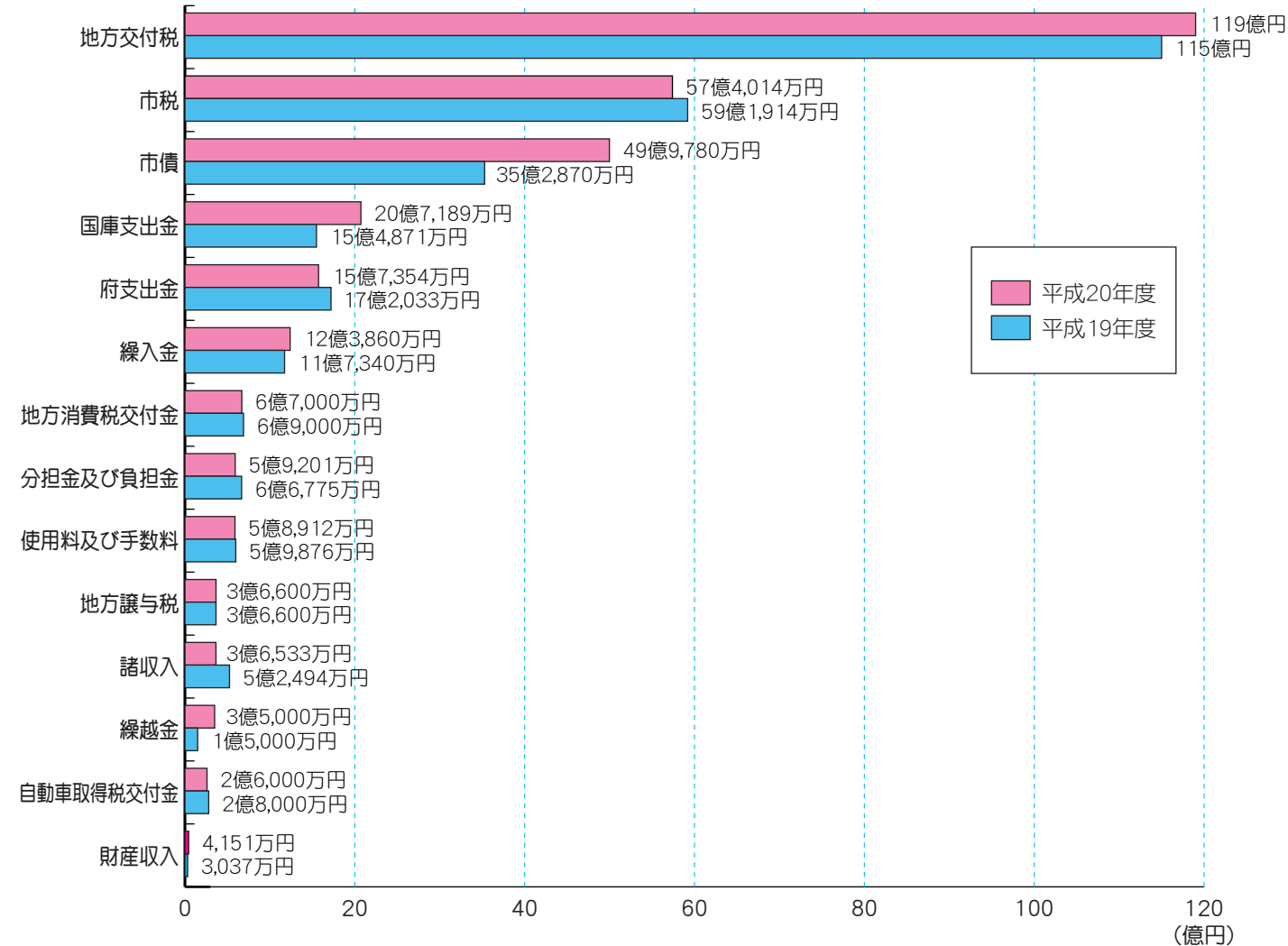
参考

- 市の予算は、「年度」という期間を使っています。
平成19年度とは、平成19年4月1日～平成20年3月31日までをいいます。
平成20年度とは、平成20年4月1日～平成21年3月31日までをいいます。
- 京丹後市の人口 6万2,828人
(平成20年3月31日現在の住民基本台帳による数値です)
市の借金や貯金の1人あたりの金額を計算する基礎に使用しました。
※本年度の掲載数値は、当初予算が市長選挙に伴う骨格予算であったため、すべて6月補正予算を加算した肉付け後の数値を用いています。

平成20年度の収入の内訳

市の収入で一番金額の多いものは、国から配分される地方交付税の119億円で、市税が57億4,014万円、次いで市債（借金のことで、地方債とも呼ばれます）が49億9,780万円の順となっています。

主な収入比較



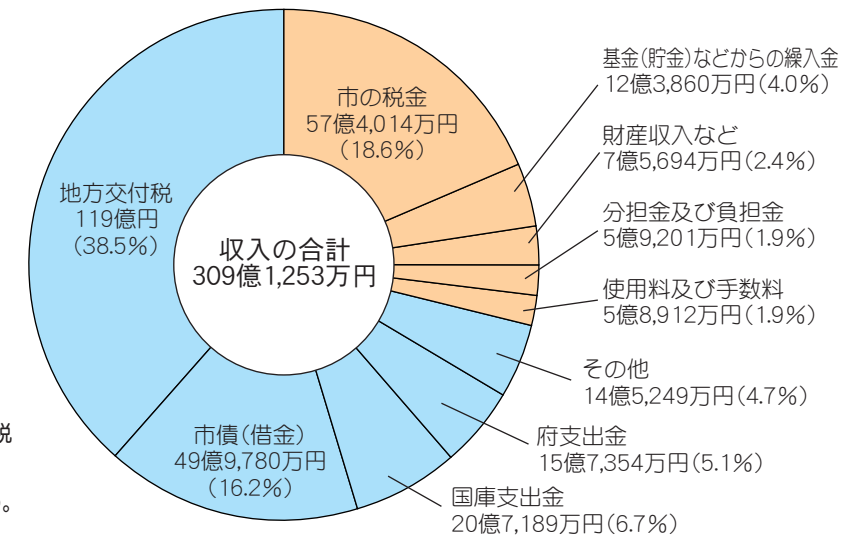
財政基盤の安定や市民のニーズに応じた自主性のある行政サービスを提供するためには、一般的に自主財源の割合が高いほど望ましいと考えられています。

市の収入総額309億1,253万円に占める割合は、自主財源が89億1,681万円（28.8%）、依存財源が219億9,572万円（71.2%）となっています。国や府からもらえるお金や借金に頼った収入構造といえます。

収入の構造

自主財源 28.8%
依存財源 71.2%

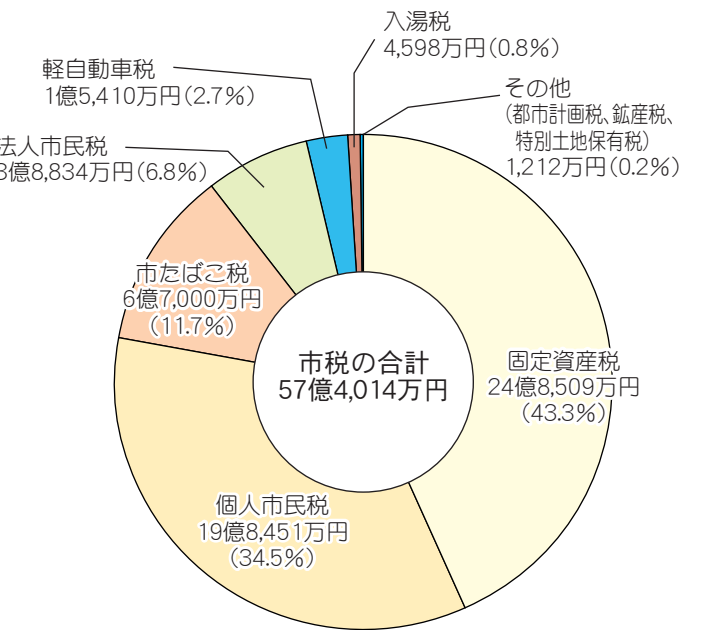
- 自主財源…市が自ら収入することができるお金。市税や施設の使用料や窓口の手数料など
- 依存財源…国や府から交付されるお金や借金をいう。地方交付税や補助金、市債など



市税の状況

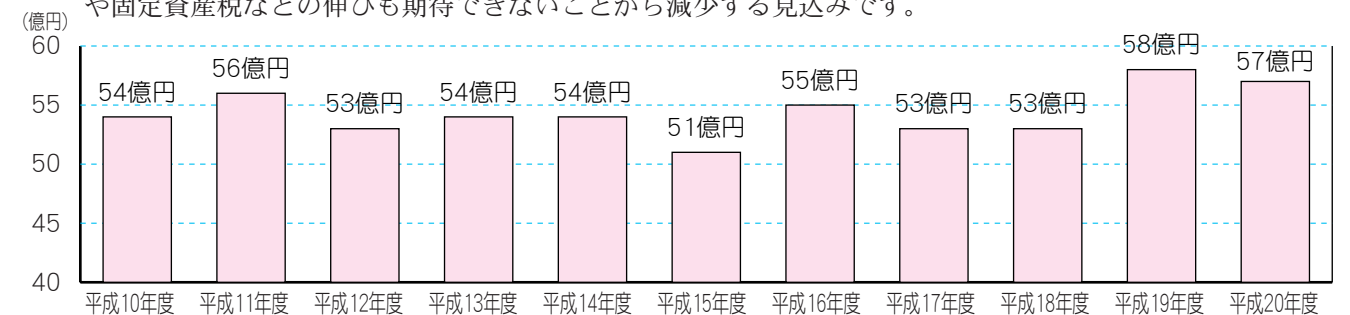
京丹後市の市税は、大きくは市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、鉱産税、特別土地保有税、入湯税、都市計画税の8種類に分けることができます。都市計画税については都市計画区域の見直しなどを進めていることもあり、京丹後市が発足してから新規に課税していませんので、合併前の旧町の滞納繰越分を徴収しています。

市税の内訳をみると、固定資産税が24億8,509万円で市税の約4割を占めており、次いで個人市民税が19億8,451万円、市たばこ税が6億7,000万円となっています。



市税の推移

平成19年度に税源移譲が行われ、所得税(国税)を減らし個人市民税(地方税)を増やしたことにより、平成19年度の市税は伸びています。しかし、個人市民税としては増えていますが、所得譲与税が廃止されたので、市全体の収入として大幅に増えたというわけではありません。平成20年度は法人税や固定資産税などの伸びも期待できないことから減少する見込みです。



(注) 平成18年度以前は決算額、平成19年度は最終予算額、平成20年度は6月補正後の予算額です。